子どもと子育て家庭を応援します

丸亀市発達障害児支援協働事業

丸亀市では、学習障がい（LD）、注意欠陥・多動性障がい（ADHD）、高機能自閉症などの発達障がいのある子どもの支援事業を実施しています。専門家、関係各課・機関、保育士、教員、NPOが連携し発達障がい児支援事業を進めています。

事業内容

巡回カウンセリング

相談員が保育・学校現場に出向き、担任、コーディネーター、保護者等からの相談を受け、助言や援助を行います。

21年度、保育所への巡回カウンセリングをスタートし、22年度からは、幼稚園、小学校、中学校でも実施。

５名の相談員が協力し合い、丸亀市の保育所から中学までを巡回しています。

【問い合わせ】
丸亀市児童課／0877-24-8808
学校教育課／0877-24-8821

「ほっぺ」の開設 児童課分室（市役所西館2階）

保護者同士が、いつでも気軽に集える場。NPO法人「地域は家族・コミュニケーション」のスタッフが常駐し、子育ての悩みや不安などの相談にあたっています。

「すきっぷ」

専門家を交えた保護者のための相談事業

「ハートサポート」

保育士・教員の勉強会の開催

セミナーの開催
個別相談の実施

ほっぺ ～HOPPE～

【問い合わせ】
NPO法人 地域は家族・コミュニケーション／0877-85-6613
http://www.chiikiwakazoku.com

「人と人とのよりよい関係をつくるために」 ～交際相手とのすてきな関係をつくっていくには～

他の人とよりよい関係を作っていくことは、将来にわたって自分の人生を豊かなものにすることにつながります。お互いが楽しく輝いているような、すてきな関係になるには、

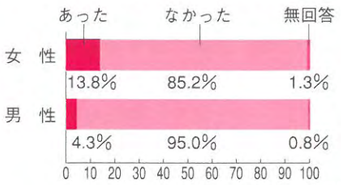
☆暴力を認めない
☆自分のことを大切にする
☆相手のことも大切にする

あなたのまわりでこんなことは起こってないかな？

◀アニメ

男女間における暴力に関する調査

「身体に対する暴行」「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫」「性的な行為の強要」をされた経験がある
（女性943人、男性799人から回答）



（内閣府/平成21年３月）

若い男女間における暴力（交際相手からの暴力）

10歳代、20歳代の交際相手からの被害経験について、交際相手から被害を受けたことが「あった」と回答した方は、女性13.6%、男性4.3%。

若年層を対象とした交際相手からの暴力の予防啓発教材より

DVD▶

DV相談ナビ	性の人権ホットライン	日本司法支援センター（法テラス）	警察相談専用電話
0570-0-55210	0570-070-810	0570-078374	#9110

♡みんな すくすく 大きくなあれ♡

巡回カウンセリングを実施してみていかがですか。

松浦　現場で直接子どもを見て、直接担当者と話ができることがとても大きな意義だと思います。また現場の状況が具体的に分かるのでこれも良いと思います。

会沢　保育士・教員との連携が自然な形で行われやすく、保護者面接を含め、今後の保育・教育の実践的なプランが練りやすいので意義があります。

大木　発達障がい児の早期発見と早期対応に寄与できると考えられます。また、発達障がい児への対応で苦慮している教員にアドバイスできることにより、その指導のあり方を少しでもよい方向に導くことができます。

大木祐治さん
（四国学院大学教授）

熊谷　それに、先生方が日頃の子どもたちへの関わりの中で感じている困難さを抱え込まずに話し合える場にもなり、そのことは結果的に子どもや保護者への大きな支えになっています。

岡田　発達障がいのある子どもの関係者と相談し、そのニーズを適切に把握することができるので、その障がい特性を考慮した支援を行うことができます。そうすることで子どもたちの本来持っている力を発揮できるような支援につながります。

岡田倫代さん
（香川県立観音寺第一高等学校教諭）

丸亀の取り組みについて、どのように評価されますか。

会沢　丸亀市独自の「協働」事業であり、関係者の思いがひとつひとつ積み重なってできました。本事業が他のモデルになるよう、より良い形にしていきたいと思っています。

会沢　勲さん
（四国学院大学教授）

松浦　現場から良い評価を受けている素晴らしい事業だと思います。モデル事業になるように充実、継続していけるといいと思っています。

大木　全国的に見ても、特別支援教育の対応が、まだまだ十分でない中、丸亀市の取組は、かなり先駆的な取り組みです。

岡田　支援のために複数の者（機関）が、同じ目的を持ちながら、それぞれの役割を遂行できています。子どもたち、保育士、保護者、教員をとりまく援助資源が最大限に生かされつつある事業だと思います。

熊谷　集団生活の中で、多くの〝困り〟を抱える子どもとその保護者にとって行政の取り組みは心強い支えとなります。〝困り〟を理解し、今後も継続・発展していってもらいたいです。

熊谷由紀さん
（臨床心理士）

発達障がいのある子どもたちへの思いを聞かせてください。

会沢　子どもは日々成長していく存在であり、わたしたちの宝物。そして、未来の社会の担い手です。発達障がいは「見えない」障がいと言われるほど、誤解や無理解が生じやすい。子ども本人・保護者・保育士・教員が力を合わせる時、必ずその子本来の「力」が伸びていきます。とくに、自閉症児と心を通わせる瞬間は、これまでの私たちの教科書に大きな修正と反省を加えるものです。

松浦　障がいの克服というのではなく、障がい（特徴）を持ちながら、快適に幸せに過ごしていくことを目指して欲しいし、支援していきたいと思います。

松浦秀雄さん
（松浦こどもメンタルクリニック院長）

大木　子どもたちが二次障がいに巻き込まれることなく、その個性を少しでも伸ばしてもらえるような環境づくりに貢献したいと思っています。

熊谷　誰にでも平等にある未来、輝く未来に希望をもって大きくなっていってほしいと願っています。そのためにも、どんな子も当たり前の支援が得られる世の中になっていくよう働きかけていきたいと思います。

岡田　同じ障がいであっても、子どもたち一人ひとりにとって必要な支援は異なってくると思います。その障がいゆえに困っている子どもたちの特性、心情を理解し、障がいゆえの行動があることをできるだけ多くの人に理解してもらいたいと願っています。支援により、子どもたちが安心して生き生きと過ごせる環境作りを急ぎたいと思います。

どの子どもたちも無限の可能性を秘めています。微力ではあるが、その可能性を最大限に引き出せるような社会にするために役立ちたいと思っています。